

令和4年度 第2回 運営推進会議資料



株式会社日電工業

デイサービスセンター長生東

－施設紹介－

当施設は定員 18 名の地域密着型通所介護です。

長年、北消防署として地域に親しまれてきた建物をデイサービスとして改修し、バリアフリーの広々とした施設として平成 25 年 9 月に開所し、事業開始から 10 年目となります。

特徴は『生活に直結した機能訓練の実施』『プライバシーに配慮した完全個別対応の入浴』『重度化に対応した設備と職員のスキル』等です。

『生活に直結した機能訓練』については、毎日炊飯は利用者が行っています。また、現在はコロナ渦のため、中止しておりますが、平時は月 1 回の食事作りを行っています。食事作りはメニューの立案から必要な食材などをご利用者が考え調理まで行います。デイサービスで家事訓練を行った事で自宅での家事にも参加できるようになったり、役割ができた利用者もあり、目指す『活動と参加』に向けて実績が出ています。

基礎的な下肢筋力などを強化するため、エアロバイクや電動サイクル、トレッドミル、プッシュプレス、ホームジム、リカンベントバイクなどの機能訓練の機械をご用意しています。

階段昇降や気候を見ながら屋外（施設敷地内）での歩行訓練も実施しております。

『重度化に対応した設備』については、送迎車両 6 台すべてが車椅子対応のリフト及びスローパー車両であり、施設内もバリアフリーとなっています。

入浴設備にも特殊浴槽を整備し、身体状況問わず入浴サービスを安全に提供しております。

『職員のスキル』については、月 1 回施設内研修を実施しており、技術・知識の研鑽に励んでおります。



-現在のサービス状況について- 令和4年12月現在

(1) 要介護度別利用状況

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数(人)	1	2	8	8	10	1	1	31
割合	3.2%	6.5%	25.8%	25.8%	32.3%	3.2%	3.2%	100%

利用者の平均介護度は。前年度末は2.37であったため、若干低くなった。

(2) 男女別利用者状況

男性	女性
8人	23人

(3) 保険者別利用者状況

保険者	茂原市	白子町	長生村	合計
人数(人)	31	0	0	31
割合	100%	0%	0%	100%

(4) 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
延べ利用者	320	337	361	336	216	317	319	346	303	2,855
平均利用者	14.5	16.0	16.4	15.3	10.8	14.4	15.1	15.7	15.1	14.8
稼働率	80%	89%	91%	84%	60%	80%	84%	87%	84%	82%

4月に利用者の家族にコロナ陽性が分かり1日休業、8月にはクラスターとなり5日間休業した。休業による稼働率の低下は著しく、特に8月は大きく落ち込んだ。

8月はコロナでの休業だけでなく入所なども多くその後の稼働率も回復までに時間がかかっている。

前年の同時期の返金稼働率が87%であったため、5%の落ち込みとなった。

(5) 取引先居宅介護支援事業所

事業所名	人数	事業所名	人数
居宅介護支援事業所長生東	9	ケアプランだるまさん	1
ケアプランここね	3	居宅介護支援センター実恵園	1
グッドケア居宅介護支援事業所	2	いこい居宅介護支援事業所	1
ボーソーヒルズ居宅支援事業所	2	ケアプランすまいる	1
モルゲンケアプラン	2	むうみんケアセンター	1
介護老人保健施設つくも苑	1	いきいきケアサポート	1
あおばケアプランサービス	1	ほんのう地域包括支援センター	1
居宅介護支援センター睦沢園	1	茂原訪問看護ステーション	1
居宅介護支援事業所ぷらんどーる	1	セントケア茂原	1

併設の『居宅介護支援事業所長生東』からの紹介率は全体の29%となっており、前年度の紹介率18%から上昇している。上昇の理由として居宅介護支援事業に関してもほんのう地域の住民のケースが増加したこと、ケアプランニングの依頼の時点で併設の通所の利用の意向があることが多くなっている。

併設居宅のケアマネジャーは3事業所以上のデイサービスを紹介し、見学などの提案の上で本人家族の意向にてサービス事業所を位置付けている。

取引のある事業所の事業所数は18事業所で減少傾向である。

今後も特定の事業所に偏ることなく多くの居宅介護支援事業所とかかわり、常に緊張感をもって事業所運営を行っていく。

(6) コロナウィルスについて

前述のとおり、4月に利用者家族が陽性であることが分かり1日休業。8月には職員4名、利用者4名が陽性となり5日間休業した。

感染経路に関しては検証するも複数の感染経路が疑われた。

これまでも厚生労働省の指針に沿っての感染予防は行っていたが、さらにデイルームに二酸化炭素濃度測定器を設置し、換気の必要な状況の可視化を図り30分ごとに5分間の換気その他、二酸化炭素濃度が1,000ppmを超えないように随時換気を行うこととした。

また、12月から千葉県より抗原検査キットの配布があり職員に対して週2回の抗原検査を継続して実施している。

当デイサービスの休業により利用者のフォローは家族の他、訪問介護、訪問看護の回数を増やすことで入浴、食事の確保などを行って頂いた。

（７）総括

令和４年度上半期においてはコロナウィルスに関する休業で運営状況への影響があり、利用者及び家族、ケアマネジャーや他事業所へ大きな心配とご迷惑をお掛けした。

感染予防対策は実施していたところだったが、感染力の強さを非常に感じた。

休業に当たっては入浴や食事、活動量などをデイサービスに依存している利用者もあり事前の想定では感染が疑われない職員と利用者での継続したサービス提供を考えていたが、想像以上の感染力と予想のつかない感染を感じ、やむを得ず休業を選択した。

また、事前に近隣デイサービスとも短期的な受け入れの合意はとっていたものの、少しでもリスクのある相談ができる状況ではなかった。

政府が春先には分類の移行の方針を示すなど先が見えてきた感はあるが、高齢者が罹患したときのリスクは大きく、まだ楽観視できず継続した予防対策を実施していく。

運営としては併設の居宅介護支援事業所のケースの利用者の割合が増加傾向にあるため、他法人の居宅との取引の機会を多く持っていきたい。

令和５年は９月に開所１０年となる節目の年であるため、今までの運営を振り返り、さらなる地域とのつながりや信頼関係の構築に努めていきたい。